

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒210-0866  
 住 所 川崎市川崎区水江町6番2号  
 氏 名 出光ルプテクノ株式会社  
 代表取締役社長 岩武 直人 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項（同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。）の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	出光ルプテクノ株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区水江町6番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	17	石油製品・石炭製品製造業
主たる事業 の内容	潤滑油の貯蔵、製造、出荷		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,846	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	製造部
		所在地	川崎市川崎区水江町6番2号
		電話番号	044-288-2264
		FAX番号	044-287-6488
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	平成25年度 ~ 平成27年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

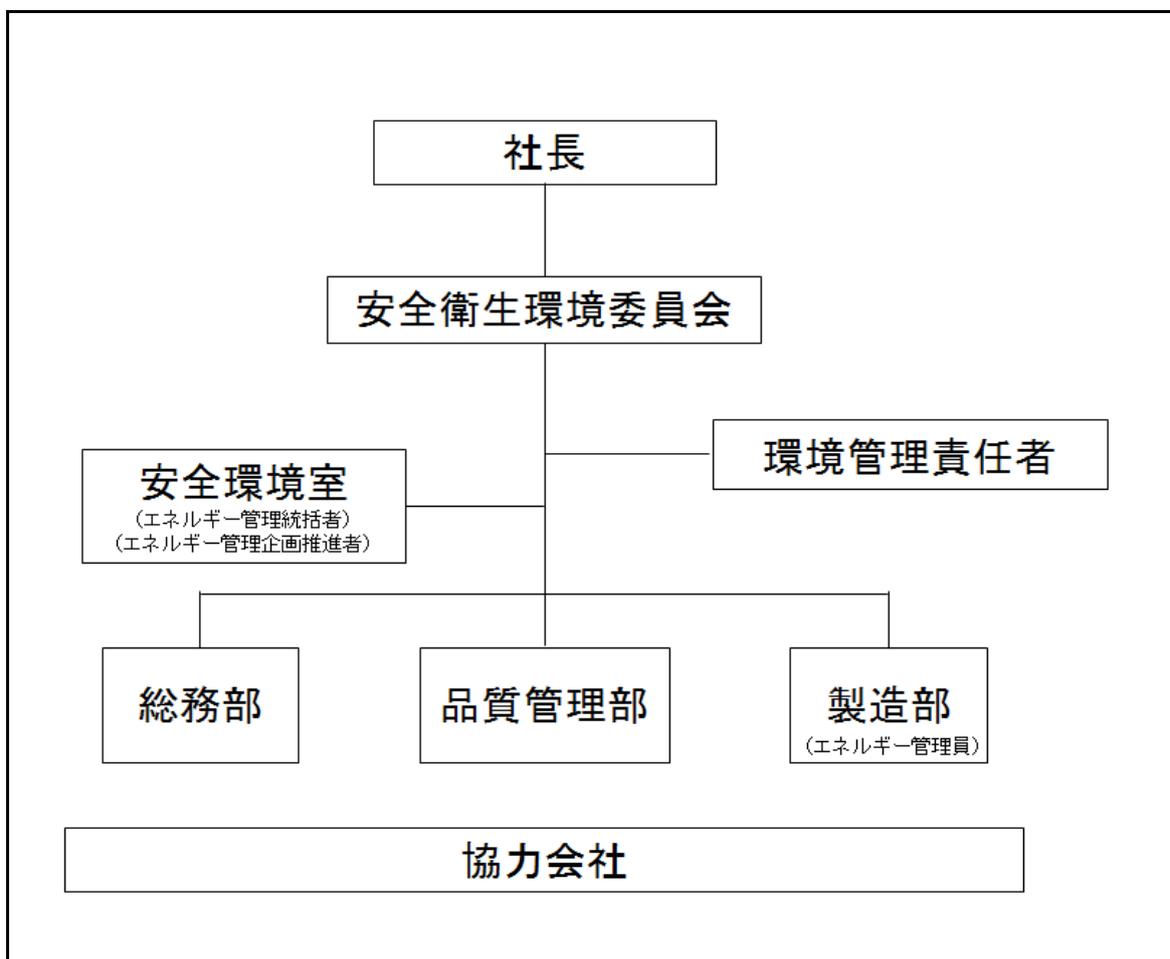
## 事業活動地球温暖化対策計画

## 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

当社は潤滑油原料の基油及び添加剤を受入れ潤滑油製造を行っており、これに係わる設備の設計・建設、生産、購買、入出荷、分析試験サービス等の全ての業務に関し「環境方針」を以下の通り定めます。

1. 『環境にやさしい事業所』を目指し、全ての業務に係わる環境管理システムの継続的改善に努めます。
2. 環境関連法規の順守はもとより、自主的取り組みにより環境汚染の予防及び環境保全に努めます。
3. 投入エネルギー効率を最適とするように、省エネルギーに努めます。
4. 廃棄物の削減及び資源の有効利用に努め、ゼロエミッションの事業所を目指します。
5. 環境管理活動推進のため、環境目的・目標を設定して、その達成に努めます。更に、環境管理システムとともにこれを定期的に見直して、環境パフォーマンスの継続的な向上を図ります。

## 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



## 3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等（第1号、第2号、第4号該当者等）

## (1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

## ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成 24 年度	目 標 年 度	平成 27 年度
基準排出量	(実) 4,341 (調) 4,338 t-CO <sub>2</sub>	目 標 排 出 量	(実) 4,491 t-CO <sub>2</sub>
削減率	(実) -3.5 %	削 減 量	(実) -150 t-CO <sub>2</sub>

## イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	製造数量	単 位	kg-CO <sub>2</sub> /kL
基準年度の値	27.22	目 標 年 度 の 値	26.42
削減率	2.9 %		
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由			

## ウ 目標設定に関する考え方

<p>温室効果ガスの排出量原単位の削減を図るため、エネルギー原単位の値を年平均1%削減することを前提に目標を設定した。</p> <p>基準年度の平成24年度は設備の改修工事により、製造日を削減しており、製造数量が減少した。平成25年以降の製造計画では製造数量増加を見込んでおり、製造に要するエネルギーの増加は免れない状況である。</p> <p>このため使用エネルギーの状況を見直しより効率的でムダのない管理を徹底することにより原単位の低減を図って行きたい。</p>
--

## (2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）

--

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主要設備の設備管理 ボイラー、エアコンプレッサー、空調機などエネルギー消費の大きな機器を中心に管理標準を整備しそれに基づく点検・整備を実施していく。</li> <li>○エネルギー使用状況のデータ活用 電力、スチームの使用量を記録するシステムから得られる数値を分析することにより、各機器の省エネ対策を検討するための情報を得る。</li> <li>○スチーム利用の効率化 保温材の点検による配管、タンクの放熱ロス改善やスチームトラップの管理を強化し、スチームのムダを省いていく。また保温材更新時に断熱性能の優れた保温材の導入を検討していく。</li> <li>○その他の電気設備の整備推進。 コンベア搬送設備等の整備を推進して、電力損失の低減を図る。</li> <li>○照明設備の効率化 照明の老朽化、増設時には高効率型照明やLEDの採用を検討する。</li> </ul>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

出光興産(株)が環境事業の一環としてグリーン電力供給事業(出光グリーンパワー)を展開しており、2010年4月から2011年10月まで当事業所でも買電先を出光グリーンパワーに変更し風力・水力・バイオマスなどの自然エネルギーを活用した電力を使用していた。現状は電力供給情勢が不安定なため一旦、大手電力会社から供給を受けているが、安定供給の見通しがついた際には再度見直す予定である。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

○エアーコンプレッサーの電力量について、エアーの漏れ低減や運転時間の見直しにより対前年比15%減の省エネルギーを達成した。

○配管保温用電気加熱設備の電力量について、運転時間や不要な箇所の停止を行うことにより対策前と比較して30%減(年間89,000kWh)の省エネルギーを達成した。

○事務所用空調機に蒸発予備器を設置することによりCOPを向上させた。

○ボイラーを連続運転させていたが、使用状況を分析し可能なときは停止させることにより年間の灯油使用量を27kL削減した。

○潤滑油の流動点試験装置を更新する際に省エネタイプの機器に変更することにより、従来の試験装置の消費電力から95%削減(年間32,000kWhの削減)することができた。

○事務所系統の40W蛍光灯252本をLEDタイプに更新し年間8,300kWhの電力削減を実施した。

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

なし

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

○廃棄物の分別、再利用化を促進し平成27年度末までに、リサイクル率90%以上を目指す。

○社内で使用する用紙の削減を推進し、平成27年度末までに使用量を500千枚以下にする。

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	4,341	t-CO <sub>2</sub>
(調)	4,338	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k<sub>l</sub> 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
出光興産(株)京浜ルプセンター	川崎区水江町6-2	1721	潤滑油製造業	4,341 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k<sub>l</sub> 以上 1,500k<sub>l</sub> 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k<sub>l</sub> 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k <sub>l</sub> 未満	
300~400k <sub>l</sub> 未満	
200~300k <sub>l</sub> 未満	
100~200k <sub>l</sub> 未満	
100k <sub>l</sub> 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--